

2024年12月18日

横浜ゴム、コンベヤベルト向けのセンシング技術を確立 安全性・経済性の向上と最適な運用管理に貢献する 総合ソリューションサービスの構築を加速

横浜ゴム（株）は稼働中のコンベヤベルトをリアルタイムで遠隔監視し、異常を検知するセンシング技術を確立しました。今後はセンシング技術で検知したデータに基づいてコンベヤベルトの最適な運用管理を提案する総合ソリューションサービスの構築を進め、2027年中のサービス提供を目指します。

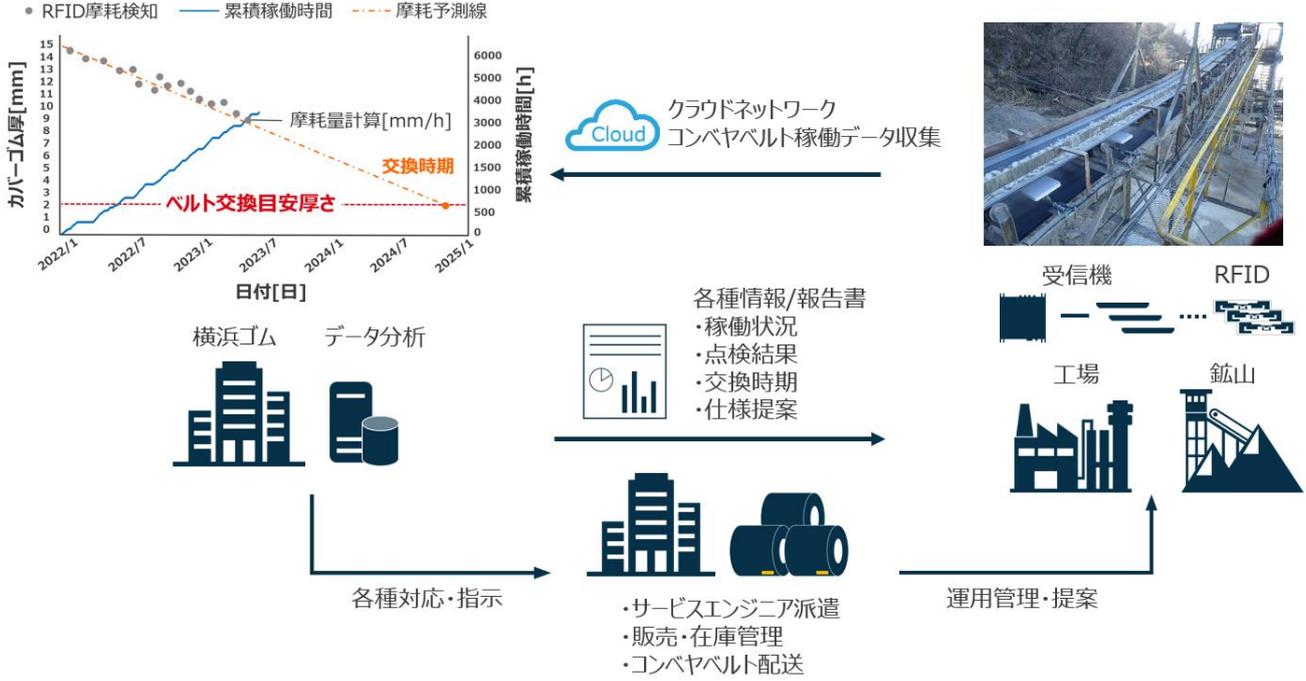
今回確立したセンシング技術は2022年2月～2024年12月までフィールド実証テストとして実際に稼働している製品で検証したものです。コンベヤベルト内部に通常の点検では確認できない微細な状態変化を検知可能な独自開発のRFID[※]タグを内蔵し、摩耗や損傷、温度変化などの各種数値データをインターネット経由で当社の開発部門へ送信します。今後横浜ゴムが構築を進める総合ソリューションサービスでは、これらのデータをクラウドネットワークで共有することによりユーザーによる異常の早期把握を可能にし、損傷や火災発生リスクの予知をサポートします。さらに、センシング技術が検知したデータを当社の専門スタッフが分析することで最適な運用管理を提案します。なお、当社はセンシング技術および管理システムに関連する特許を13件出願しており、継続的に知的財産の蓄積も進めています。

※RFID（Radio Frequency Identification）＝電波を用いて情報を非接触で読み書きする自動認識技術

センシング技術を活用した総合ソリューションサービスをご利用いただくことで、潜在的なリスクを検知して事故を未然に防ぐなど安全性を向上させるほか、保全コストの削減といった経済性にも貢献します。また、点検作業の負担軽減やメンテナンスの省力化により作業現場の課題となっている人手不足にも対応します。さらに、当社の専門スタッフによる運用管理により、適切な点検頻度や交換サイクル、製品仕様の最適化などユーザーごとに異なる使用環境や要望に合った最適な提案を実現します。当社の総合ソリューションサービスをご利用いただき最適な運用管理を実現することは製品の長寿命化にも寄与し、製造時のCO₂排出量や原材料の削減など環境課題への貢献も期待できます。

横浜ゴムは2024年度から2026年度までの中期経営計画「Yokohama Transformation 2026（YX2026）」（ヨコハマ・トランスフォーメーション・ニーゼロニーロク）に取り組み、MB事業のひとつである工業資材事業のコンベヤベルトにおいては国内での確固たる市場地位の確立を目指しています。その実現に向けた活動の一環として、ユーザーの安心・安全と経済性に貢献する新たな付加価値を創造していきます。

＜センシング技術を活用した総合ソリューションサービスの概念図＞



このリリースに関するお問い合わせ先
 横浜ゴム（株）経営企画部 広報室 担当：池田
 TEL：0463-63-0414 FAX：0463-63-0552